

Joint Studio 1 「RAW」

期間： 2018年10月22日～10月28日

場所： Norway (Bergen, Lygra, Hjelmås, Oslo)

参加者： Kirsti Bræin (Fashion and Costume Design, KHiO)

Toni Kauppila (Interior Architecture and Furniture Design, KHiO)

オスロ芸術大学学生7名 (KHiO)

川井由夏 (生産デザイン学科・テキスタイルデザイン専攻)

濱田芳治 (生産デザイン学科・プロダクトデザイン専攻)

テキスタイルデザイン専攻学生4名、プロダクトデザイン専攻学生4名

概要：オスロ国立芸術大学デザイン学科と多摩美術大学生産デザイン学科の国際交流プロジェクト〈CONNECTING WOOL〉のJoint Studio 1を実施。ノルウェーに渡航、フィールドトリップと集中ワークショップを行った。

背景：ノルウェー教育国際協力センター (SIU) の UTFORSK Partnership Program (人物相互派遣を通して高等教育機関の国際交流推進を目的とする4年間の助成プログラム) に2018年度採択された〈CONNECTING WOOL〉プロジェクトを開始。ノルウェー北部に生息する北方固有種 ワイルドシープを中心に羊毛の新しい素材活用方法を探究しながら学生および大学間の国際交流を深める。

報告：Bergen に到着後、リサーチのため3日間のフィールドトリップに出かけた。はじめの訪問地の Lyngra は、農業の継続によって5千年前から変わらない歴史的な沿岸の風景が保全されているワイルドシープの繁殖地。Lynghei Center (ノルウェー北西地域の沿岸景観保全と地域文化に関する情報センター) に滞在し、地域に生育する植物 (主にヘザーや苔類) を用いた羊毛の染色のデモンストレーションやセンター職員のガイドで地域の自然観察を行った。更に1898年創業の紡績工場で羊毛加工を見学後、専門的な職人による羊毛刈りデモンストレーション、羊毛の分類作業からパッキングまでの工程などを見学した。その後、オスロ芸大で3日間の集中ワークショップを実施した。協力企業のテキスタイルデザイナーと卒業生のアーティストのレクチャーを聴講、教員の指導をうけながら、学生は、ペアでテーマに基づいて提案を練った。オスロ芸大のスタジオでディスカッションや素材研究・実験を行った。最終日には、CONNECTING WOOL のサポート企業およびフィールドトリップの協力企業の方々、オスロ芸大の教員、多摩美術大学2018年度交換留学生を迎え、研究結果のプレゼンテーションを行った。

